

月例会ダイジェスト【67】

収束の兆しが見えない新型コロナウイルスの感染拡大。さんぽ会は5月に会員限定で、コロナウイルスに関するテーマで月例会を開いたが、7月10日、今度は非会員も含め広く参加者を募り「企業のコロナ対応II」と題してWeb会議形式で開催した。今回のコーディネーターは、福田洋氏(順天堂大学)、坂本宣明氏(ヘルスデザイン(株))、楠本真理氏(三井化学(株))、山下奈々氏(株)リコー)、金森悟氏(帝京大学大学院)、小島健一氏(鳥飼総合法律事務所)、佐藤文彦氏(Basical Health産業医事務所)、高家望氏(東急不動産(株) / (株) 東急オアシス)、安倉沙織氏(アビームコンサルティング(株))の9名。

初めに、前回同様、さんぽ会の会長で大学特任教授、産業医かつ総合診療医の福田氏が「新型コロナウイルス感染症の現状と対策2」の演題で基調講演を行った。1月末には海外赴任者の帰国相談を受けるなどコロナと産業保健の結びつきが強かったこと、最新の検査や治療の状況、世界と日本の感染状況の差異など、5月の話題を非会員向けに改めて話した。

この日はちょうど東京都内の新規感染者が243人と過去最多になった日であり、ニュースでも話題であったが、3～4月の第1波とは世代、重症度、検査数などの状況が違っており、疫学的にどんな集団を捉えているのか注視する必要があると述べた。今後は臨床での診断、企業の疫学的な実態把握など、PCR/抗原/抗体検査の用途に応じた使い分けが必要と話した。

さんぽ会のアンケート調査結果から、現時点では3割の企業にしか陽性者が出ておらず、感染拡大は限定的としながらも、いつか必ず感染者が出る日は来ると指摘。その際非常に大事なことは「絶対に感染者を責めないこと」と強調した。また、ウイズコロナ時代の産業保健活動について、運動不足やコミュニケーション不足など課題が指摘されるテレワークにも良い面があり、通勤時間の短縮、マイペースに働ける、嫌な上司に会わなくて済む、家族団らんの時間確保、オフィス賃料の削減などを挙げた。併せて、「自宅に書斎がなくても仕事のスイッチが入るような環境を家の一角につくる整備も真剣にやるべき」と付け加えた。

続いて、4社の産業保健担当者から事例が発表された。坂本氏は嘱託産業医として各社のコロナ対策について話した。在宅勤務が進む中で、多くの企業で行われているアルコールや手洗いによる手指消毒の徹底のほか、オフィス内が密に

ならないように会議室も仕事場として利用している例、アクリル板やビニールカーテンを座席の前後左右に配置している例、出勤率を50%や25%に減らす目標を掲げている例、社員を2班に分けて交代で勤務させている例などを紹介した。

保健師の楠本氏は自社の対策の実例として、「過去の新型コロナウイルスインフルエンザを教訓に、各事業所で枚数を決めて不織布マスクを備蓄していた。まず1月に、中国の現地従業員向けにマスクを配り、国内では3月から、必要な人に行き渡るよう計画的に配った。各所の数を共有して足りない所には送ったり、新たに調達したりする体制を構築していった」と述べた。同じく保健師の山下氏は、2月下旬ごろから社内の対策会議が立ち上がった経緯を説明。4月からライブ配信機能を使って健康相談を2回実施したという。また、テレワーク、在宅勤務が進むにつれ、運動不足解消を目的にストレッチ運動の動画配信を4～6月に行った実例を示した。

河下太志氏(アビームコンサルティング(株) 産業医)は、中国との行き来が盛んで早い段階で緊急事態対策本部を立ち上げたため「対策の動きが非常にスピーディーで、経営陣と情報共有してどンドン次への展開に合わせていった」と振り返った。2月にはWeb上で体温や体調のアンケートを取りリスト化し、必要に応じて産業医面談などを行ったという。その後、在宅勤務者が増え、もともとアプリを使ったセルフモニタリングに力を入れていたことから、食事、睡眠、運動に関するコンディションを5点満点で点数化した推移グラフを作成。1月調査時概ね2点だったのが、4月7日の緊急事態宣言後には食事と睡眠に関しては3点台まで急上昇し、運動は若干落ち込んだという分析結果を示した。その後、運動動画を配信するなどして「運動」の数値も徐々に上がっていったという。

後半はグループワーク。題目は「在宅・リモート勤務者の健康管理や遠隔コミュニケーションで困っていることと工夫していること」。運動不足には「1時間の休憩中に必ずコンビニなど外に出かける」、アプローチしにくくなったメンタル対策では「電話やLINEなどで気軽に相談できるようにした」、営業職でリモート勤務できない場合は「輪番にして週2、3日出社。営業はせず納品に仕事を絞る」といった対処案が出された。

最後に金森氏が「産業保健のサービスが受けられる人はまだ恵まれた状況。恩恵を受けられないケースや、給料が大幅に下がって健康面に支障をきたすなどいろいろなケースがある。そういった視点も含めて今後もディスカッションできれば」と語り、二百数十人が参加して過去最多となった今回は閉会となった。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp/>
- FB ページ <http://www.facebook.com/sanpokai>